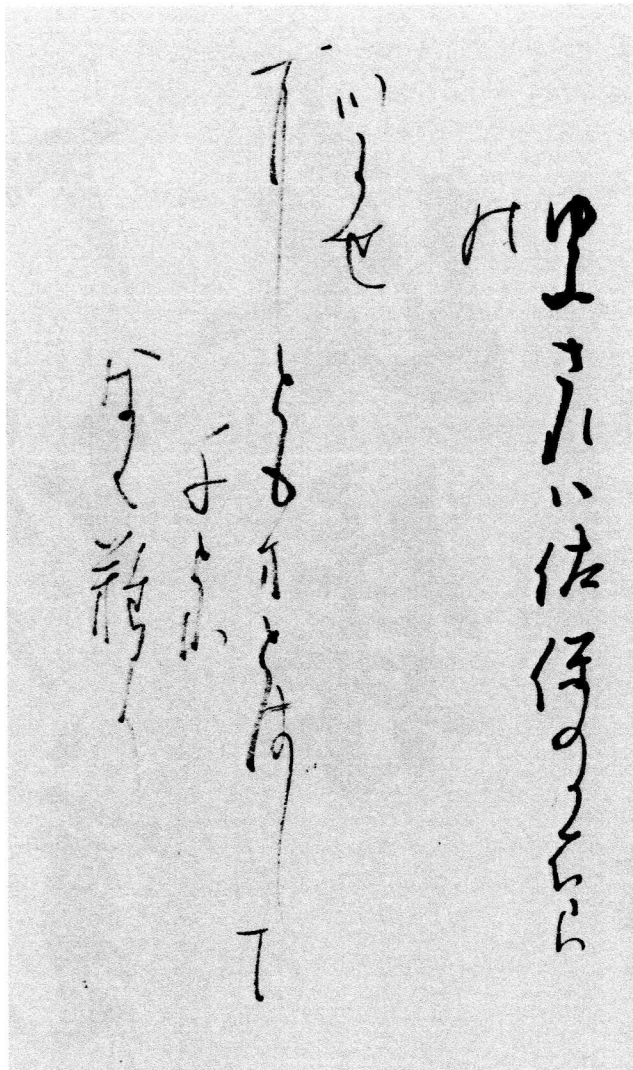


中村素堂先生の仮名散らし書きの魅力(六)
—三十六歌仙—

夕ざれば 佐保のかはらの 川風に 友まどはして 千鳥なくなり

紀きの友則ともり

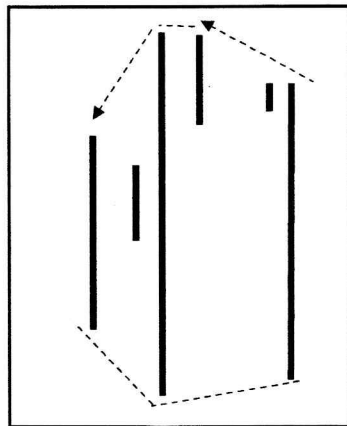
(紀 友則)
生没年未詳(？〜九〇七？)。『古今和歌集』選者の一人、まもなく病を得てその完成を見ずに没す。享年は五十余歳。紀貫之の従兄に当たる。



中村素堂先生の書 中谷春径先生提供

(歌意)
「夕方になると、佐保の川原に川風(川霧)が立ちこめ、友とはぐれてしまつた千鳥が鳴いている。」この歌は、拾遺集二三八番に「夕ざれば佐保の川原の川霧に友まどわせる千鳥鳴くなり」と出ています。

〈線の構成〉



〈字母〉

ゆふされハ佐保の可者ら
川か可せ能の
耳に
とも万まとは して
千ちと利り
なく難なり

仮名散らし書きのわかり易い教材は、素堂先生が書かれた散らし書きと、その字母と線の構成にあると思います。今回の書式は、芯になる主体の二本の行を中心に円を描くように書かれているのが特徴的です。(中村青藍)